

新しい税システムの提案

学校法人聖啓学園佐久長聖中学校 3年 重藤 絵音愛

私は現在、十五歳。十五年間で、私個人ではどれくらいの税金を納め、そしてその税金は何に使われてきたのだろうか。

中学生である私自身が、直接納めてきた税金で思いつくのは、間接税である消費税だ。昨年、消費税率が八%から十%にあがった。しかし私自身は学生であり、高額な消費行動をすることがないため、増税を実感したことも負担に感じたこともない。

そこでふと、冒頭で述べたことを疑問に思った。

未就労者である学生、はたまた全ての人が、この世に生を享けてからの間接税を含めた自分の納税額は把握していないだろう。国のシステムでも、各個人の間接税を含めた自分の納税額はデータ管理していないと思われる。

現在、国民にはマイナンバーがふられ、社会保障、税、災害対策の3分野で情報が管理され、複数の機関が同一人の情報を確認できる。しかし、企業のマイページのように、私達がその一元化された自身の情報を自由に確認することはできない。

もし、中学生の私でも自分の納税額がサイトで確認でき、納税先や使用用途を自ら決められるシステムがあったら、普段何気なく支払っている消費税も「意識なき納税」から「意識ある納税」へと変わるだろう。そして、私たち若い世代が納税を実感することは、未来につながる大きな意味をもつと思う。

実際に今「ふるさと納税」という、応援したい好きな自治体へ寄附をする仕組みがある。希望自治体に事実上の「納税」が可能というものである。寄附金の使い道を選ぶこともでき、私の家では、大都市ならば子供の教育に、高齢者の多い比較的小さな市町村ならば福祉医療に役立ててもらいたいという考えのもと毎年寄付をしている。

この仕組みをさらに発展させたような、老若男女だれもが参加可能な新しい納税システムを構築するという、思い切った大改革がこれからの日本には必要ではないだろうか。もちろん一元化されたデータを自由に個人が使用することは、セキュリティの関係でハードルが高く、費用対効果も問題だろう。しかし、私たちでも納税の意識を持ち、税金の振り分けという政治活動の一端を担うことで、政治への関心が早くから芽生え、のちの選挙の投票率の増加にもつながると思う。

昨今、世界が協力してSDGsに取り組んでいるが、総じて必要なのは固定概念を捨て、荒唐無稽だと感じるアイデアでもまずは議論し、リスクを恐れずチャレンジしてみることはないだろうか。

地球の輝きや未来の明るさは、私たちの税が出発点であると、強く思う。